

共同研究グループ活動報告（2025年度）

芸術（アート）と物語の交雑／発信力

1. 講演会・研究会の開催

開催日：2026年3月9日（予定）

会場：Zoom

講演者・発表者（所属）：芹澤凜香（明治学院大学）

演題：『印象派の超克』を読む

2. シンポジウムの開催

特になし

3. 活動内容

本グループが行った活動は以下の5点である。

・東日本大震災とアートの関係について、陸前高田の現地調査をふまえて、小森はるか+瀬尾夏美『二重のまち／交代地のうたを編む』について研究を進め、論文化した。

・今年度は、特に室町時代の語り物文芸である幸若舞曲の絵入り本のうち、絵巻や奈良絵本制作の元になった可能性のある江戸版の草子本について調査を行った。幸若舞曲の主要な36の演目を読み物化し、挿絵を入れた「舞の本（まいのほん）」を対象とし、絵巻、奈良絵本、屏風との関係を明らかにするために、今年度は現存が確認できる江戸版の幸若舞曲の伝本一覧を作成し、書誌調査を行った。

・アートと物語の関係の中でも、今年度は特に浮世絵における伝承、信仰などの表現方法に焦点をあて、特に七福神を題材とする作品について調査を行った。七福神のイメージや使いの動物、明治期の横浜を舞台とした作品などに注目して考察し、その成果を「浮世絵における七福神一福を招く表現」（『七福神、大集合！』三弥井書店 2025年）として発表した。

・昨年度2月に本学で上演した作品の本公演として、2025年9月27日 [土]・28日 [日]の2日間に渡り、アマノ芸術創造センター名古屋（愛知県）にて、伏木啓演出『Between the Lines』の上演を行った。アフタートークのゲストとして、秋庭史典氏（名古屋大学）、唐津絵理氏（愛知県芸術劇場 芸術監督）、熊谷謙介氏（神奈川大学）、わかぎゑふ氏（作家・演出家 / 劇団リリパットアーミーII 二代目座長 / 芝居製作処 玉造小劇店主宰）が登壇した。また、この上演に関わるクリエイション、リサーチ、参与観察、研究打ち合わせを行った。

・松本和也『印象派の超克－近代日本における西洋美術受容の言説史－』をテーマにした研究会を、2026年3月9日に実施する予定である。芹澤凜香（明治学院大学）に「『印象派の超克』を読む」というタイトルでご発表いただく。

（文責：水川敬章）